

放射性物質に対応した畜産物生産のための作業マニュアル (肉用牛編) のチェックリスト

1 畜舎・機械の清掃・洗浄

(1) リスク低減のための敷地周辺ハザードマップの作成 チェック欄

○敷地内や周辺の簡単な見取り図を作成し、卓越風向、隔離管理物の位置、放射性セシウム濃度の高い箇所等を書き込みます。	<input type="checkbox"/>
---	--------------------------

(2) 畜舎 チェック欄

○開口部にカーテンやシートを設置する。	<input type="checkbox"/>
○雨樋を設置する。	<input type="checkbox"/>
○畜舎に入るときは靴の底の土等の付着物を落とす。	<input type="checkbox"/>

(3) 作業機器の洗浄 チェック欄

○畜舎内に持ち込む前に洗浄する。	<input type="checkbox"/>
------------------	--------------------------

(4) 清掃 チェック欄

○マスク、ゴム手袋等を着用する。	<input type="checkbox"/>
○ホコリを巻き上げない。	<input type="checkbox"/>
○こまめに清掃する。	<input type="checkbox"/>
○畜舎自体も清掃する。(壁、柱)	<input type="checkbox"/>

2 家畜の飼養管理

■放 牧

(1) 放牧準備

チェック欄

○県の指導内容や加入団体の基準を確認する。	<input type="checkbox"/>
○出荷が想定される場合は、牛肉中の放射性セシウム濃度の試算を行い、給与量を確認する。	<input type="checkbox"/>
○暫定許容値以下であることが確認された放牧地に放牧する。	<input type="checkbox"/>
○野草や畦畔草も暫定許容値以下であることを確認する。	<input type="checkbox"/>
○落ち葉が採食されないように清掃する。	<input type="checkbox"/>
○飼槽や鉢塩容器を清掃する。	<input type="checkbox"/>
○沢水等の使用は避け、放射性セシウムが検出されないことが確認された水道水、井戸水を使用する。	<input type="checkbox"/>
○貯水槽には蓋をする。	<input type="checkbox"/>
○事故当時に屋外に置かれていた資材（シート等）は交換し、保管・処分する。	<input type="checkbox"/>
○ホットスポットの有無を調べ、あった場合には牛が入れないように電気牧柵等で囲い、早期に客土等の対策を行う。	<input type="checkbox"/>
○公共牧場に放牧する場合は、各牧場の基準に合致させる。	<input type="checkbox"/>

(2) 放牧中

チェック欄

○定期的な放牧監視を行い、想定外の飼料等の摂取がないよう除草等必要な対策を行う。	<input type="checkbox"/>
○補助飼料等を購入したり譲り受ける場合は、暫定許容値以下であることを確認する。	<input type="checkbox"/>

■ 舎飼い

(1) 飼料・飲水等

チェック欄

○県の指導内容や加入団体の基準を確認する。	<input type="checkbox"/>
○放牧終了後に出荷が想定される場合は、牛肉中の放射性セシウム濃度の試算を行い、給与量を確認する。	<input type="checkbox"/>
○暫定許容値を超える飼料の誤食を防止する。	<input type="checkbox"/>
○事故当時に屋外に置かれていた資材（シート等）は交換し、保管・処分する。	<input type="checkbox"/>
○畜舎周辺（パドック、運動場、通路など）の床がコンクリートでは水洗を、土では耕起や客土等を行い、清掃と周囲の除草を行う。	<input type="checkbox"/>
○飼槽や鉢塩容器を清掃する。	<input type="checkbox"/>
○沢水等の使用は避け、放射性セシウムが検出されないことが確認された水道水、井戸水を使用する。	<input type="checkbox"/>
○貯水槽には蓋をする。	<input type="checkbox"/>

(2) 畜舎構造等

チェック欄

○ホットスポットの有無を調べ、あった場合には牛が入れないように電気牧柵等で囲い、早期に客土等の対策を行う。	<input type="checkbox"/>
○開放型の畜舎や飼料庫では、埃や雨水が流入しないようにカーテン等を設置する。	<input type="checkbox"/>
○畜舎の洗浄、清掃を行う（「畜舎・機械の洗浄・消毒」の項を参照）。	<input type="checkbox"/>
○飼料は屋内で保管などする。	<input type="checkbox"/>
○敷料に粗飼料を使う場合は100Bq/kg以下のものを使用する。その他は400Bq/kg以下のものを使用する。	<input type="checkbox"/>
○と畜出荷時にモニタリング検査を行っている県では、その手順に従う（「出荷のモニタリング」の項を参照）。	<input type="checkbox"/>

3 飼料・敷料の生産・保管

1) 稲発酵粗飼料の生産・保管

(1) 汚染リスクの把握、ほ場作業にあたっての準備

チェック欄

○県や加入団体等の指導内容を確認する。	<input type="checkbox"/>
○地域内で暫定許容値超えが発生した事例があれば、その原因や対策を把握する。	<input type="checkbox"/>
○ほ場ごとに放射性セシウム検査の結果、土壌診断結果、施肥量等の管理履歴を整理、保存し、作付け前に確認する。	<input type="checkbox"/>
○収穫機、飼料庫、その他管理用機械は、使用前に清掃・洗浄し、残っている牧草、稲わら等を取り除く。	<input type="checkbox"/>
○事故当時に屋外にあった生産資材は、汚染している可能性があるため、新しいものに交換する。	<input type="checkbox"/>

(2) 作業者の安全確保

チェック欄

○マスク・手袋（綿やゴム製）・ゴム長靴等を着用する。	<input type="checkbox"/>
○農作業後に手足・顔等の露出部分を洗浄する。	<input type="checkbox"/>
○屋外での作業後、屋内に入る際は、作業服を着替えるなど、ちり、ほこり等を持ち込まないようにする。	<input type="checkbox"/>

(3) 耕起作業

チェック欄

○耕起深が深く、均一となるよう丁寧に耕起作業を行う。	<input type="checkbox"/>
----------------------------	--------------------------

(4) 土壌改良資材の利用

チェック欄

○土壌診断を行う。土壌診断が困難な場合の施肥対応は、行政や普及指導機関に相談する。	<input type="checkbox"/>
○堆肥等を十分に施用して、土壌の交換性カリが低下しないように注意する。	<input type="checkbox"/>
○堆肥の利用にあたっては、放射性セシウム濃度が暫定許容値(400 Bq/kg)以下であることを確認する。	<input type="checkbox"/>

(5) 肥培管理

チェック欄

○土壌中の交換性カリ含量が25mg/100g程度となるよう、速効性のカリ肥料等を施用する。	<input type="checkbox"/>
○窒素の過剰な施肥は控える。	<input type="checkbox"/>

(6) 栽培から収穫、出荷までの管理

チェック欄

○倒伏をさけるため、窒素施肥量、中干しに配慮するとともに、排水性を高めて収穫作業時のほ場表面の乾燥に配慮した水管理を行う。	<input type="checkbox"/>
○収穫時の刈り取り高さを15cm以上として、土壌付着量が多い地際に近い部分を刈り残す。	<input type="checkbox"/>
○地際部位はできるだけ秋にすき込みして、翌年の移植作業に支障が生じないようにする。	<input type="checkbox"/>
○集草作業時の土壌の巻き込みに注意する。	<input type="checkbox"/>
○梱包したロールが泥で汚れないようブルーシート等の上に置くなどして、土壌の付着を防ぐ。	<input type="checkbox"/>

(7) 収穫物の保管

チェック欄

○放射性セシウムの暫定許容値を超える飼料を隔離保管する場合、マジックやスプレーで目印をつけて、誤給餌、誤食しないように注意する。	<input type="checkbox"/>
--	--------------------------

3 飼料・敷料の生産・保管

2) 永年生牧草の生産・保管

(1) 汚染リスクの把握、ほ場作業にあたっての準備

チェック欄

○県や加入団体等の指導内容を確認する。	<input type="checkbox"/>
○暫定許容値を上回ることが見込まれる地域では、草地更新を実施し、土壌から牧草への移行抑制対策を行う。	<input type="checkbox"/>
○ほ場ごとに放射性セシウム検査の結果、土壌診断結果、施肥量等の管理履歴を整理、保存し、作付け前に確認する。	<input type="checkbox"/>
○収穫機、飼料庫、その他管理用機械は、使用前に清掃・洗浄し、残っている牧草、稲わら等を取り除く。	<input type="checkbox"/>
○事故当時に屋外にあった生産資材は、汚染している可能性があるため、新しいものに交換する。	<input type="checkbox"/>

(2) 作業者の安全確保

チェック欄

○マスク・手袋（綿やゴム製）・ゴム長靴等を着用する。	<input type="checkbox"/>
○農作業後に手足・顔等の露出部分を洗浄する。	<input type="checkbox"/>
○屋外での作業後、屋内に入る際は、作業服を着替えるなど、ちり、ほこり等を持ち込まないようにする。	<input type="checkbox"/>

(3) 土壌改良資材の利用

チェック欄

○土壌診断を行う。土壌診断が困難な場合の施肥対応は、行政や普及指導機関に相談する。	<input type="checkbox"/>
○堆肥の利用にあたっては、放射性セシウム濃度が暫定許容値（400 Bq/kg）以下であることを確認する。	<input type="checkbox"/>
○堆肥等を十分に施用して、土壌の交換性カリ含量が低下しないように注意する。	<input type="checkbox"/>

(4) 肥培管理

チェック欄

○土壌中の交換性カリ含量が30~40mg/100g程度となるよう、堆肥や速効性のカリ肥料を施用する。	<input type="checkbox"/>
○施肥の成分バランスに注意して、窒素だけの施肥は行わない。	<input type="checkbox"/>
○土壌pHが6.5程度となるように、苦土石灰等のアルカリ資材を施用する。	<input type="checkbox"/>

(5) 栽培から収穫、出荷までの管理

チェック欄

○極端な早刈りを避けるなど、適切な収穫時期を遵守する。	<input type="checkbox"/>
○倒伏を避けるため、適期の収穫、適切な窒素施肥を行う。	<input type="checkbox"/>
○収穫時の刈り取り高さを10cm以上として、土壌の付着量が多い地際近くを刈り取らないようにする。	<input type="checkbox"/>
○集草作業時の土壌の巻き込みに注意する。	<input type="checkbox"/>
○ほ場周辺における雑草や落ち葉の混入に注意する。	<input type="checkbox"/>
○防風林近くでは牧草のセシウム濃度が高くなる場合があるため、ロールに目印をつけて注意する。	<input type="checkbox"/>

(6) 収穫物の保管

チェック欄

○収穫年、収穫時期が区別できるよう、ロールにマジックやスプレーで印をつけて、区別できるよう保管場所に注意する。	<input type="checkbox"/>
○放射性セシウムの暫定許容値を超える飼料を隔離保管する場合、マジックやスプレーで目印をつけて、誤給餌、誤食しないように注意する。	<input type="checkbox"/>

3 飼料・敷料の生産・保管

3) 飼料用トウモロコシ等単年生飼料作物の生産・保管

(1) 汚染リスクの把握、ほ場作業にあたっての準備

チェック欄

○県や加入団体等の指導内容を確認する。	<input type="checkbox"/>
○利用自粛となっている永年草地を耕起し、作付けする場合、永年草地の対策に準じて、耕起やカリ施肥などをしっかりと実施する。	<input type="checkbox"/>
○ほ場ごとに放射性セシウム検査の結果、土壌診断結果、施肥量等の管理履歴を整理、保存し、作付け前に確認する。	<input type="checkbox"/>
○収穫機、飼料庫、その他管理用機械は、使用前に清掃・洗浄し、残っている牧草、稲わら等を取り除く。	<input type="checkbox"/>
○事故当時に屋外にあった生産資材は、汚染している可能性があるため、新しいものに交換する。	<input type="checkbox"/>

(2) 作業者の安全確保

チェック欄

○マスク・手袋（綿やゴム製）・ゴム長靴等を着用する。	<input type="checkbox"/>
○農作業後に手足・顔等の露出部分を洗浄する。	<input type="checkbox"/>
○屋外での作業後、屋内に入る際は、作業服を着替えるなど、ちり、ほこり等を持ち込まないようにする。	<input type="checkbox"/>

(3) 耕起作業

チェック欄

○耕起深が深く、均一となるよう丁寧に耕起作業を行う。	<input type="checkbox"/>
○ロータリ爪が正常であるかどうか確認する。	<input type="checkbox"/>

(4) 土壌改良資材の利用

チェック欄

○土壌診断を行う。土壌診断が困難な場合の施肥対応は、行政や普及指導機関に相談する。	<input type="checkbox"/>
○堆肥等を十分に施用して、土壌の交換性カリが低下しないように注意する。	<input type="checkbox"/>
○堆肥の利用にあたっては、放射性セシウム濃度が暫定許容値(400 Bq/kg) 以下であることを確認する。	<input type="checkbox"/>

(5) 肥培管理

チェック欄

○土壌中の交換性カリ含量が30~50mg/100g程度となるよう、堆肥や速効性のカリ肥料を施用する。	<input type="checkbox"/>
○窒素の過剰な施肥は控える。	<input type="checkbox"/>
○土壌pHが6.5程度となるように、苦土石灰等のアルカリ資材を施用する。	<input type="checkbox"/>

(6) 栽培から収穫、出荷までの管理

チェック欄

○トウモロコシは黄熟期、イタリアンライグラスなど冬作物は出穂~開花期に収穫する。	<input type="checkbox"/>
○倒伏を避けるため、風雨で倒伏しやすいライムギやイタリアンライグラスは適切な窒素施肥を行う。	<input type="checkbox"/>
○収穫時の刈り取り高さを10cm以上として、土壌の付着量が多い地際近くを刈り取らないようにする。	<input type="checkbox"/>
○集草作業時の土壌の巻き込みに注意する。	<input type="checkbox"/>
○ほ場周辺における雑草や落ち葉の混入に注意する。	<input type="checkbox"/>
○防風林近くでは牧草のセシウム濃度が高くなる場合があるため、ロールに目印をつけるなど区別できるよう注意する。	<input type="checkbox"/>

(7) 収穫物の保管

チェック欄

○放射性セシウムの暫定許容値を超える飼料を隔離保管する場合、マジックやスプレーで目印をつけて、誤給餌、誤食しないように注意する。	<input type="checkbox"/>
--	--------------------------

3 飼料・敷料の生産・保管

4) いなわらの生産・保管

(1) 汚染リスクの把握、ほ場作業にあたっての準備

チェック欄

○県や加入団体等の指導内容を確認する。	<input type="checkbox"/>
○地域内で暫定許容値超えが発生した事例があれば、その原因や対策を把握する。	<input type="checkbox"/>
○ほ場ごとに放射性セシウム検査の結果、土壌診断結果、施肥量等の管理履歴を整理、保存し、作付け前に確認する。	<input type="checkbox"/>
○収穫機、飼料庫、その他管理用機械は、使用前に清掃・洗浄し、残っている牧草、稲わら等を取り除く。	<input type="checkbox"/>
○事故当時に屋外にあった生産資材は、汚染している可能性があるため、新しいものに交換する。	<input type="checkbox"/>

(2) 作業者の安全確保

チェック欄

○マスク・手袋（綿やゴム製）・ゴム長靴等を着用する。	<input type="checkbox"/>
○農作業後に手足・顔等の露出部分を洗浄する。	<input type="checkbox"/>
○屋外での作業後、屋内に入る際は、作業服を着替えるなど、ちり、ほこり等を持ち込まないようにする。	<input type="checkbox"/>

(3) 耕起作業

チェック欄

○耕起深が深く、均一となるよう丁寧に耕起作業を行う。	<input type="checkbox"/>
----------------------------	--------------------------

(4) 土壌改良資材の利用

チェック欄

○土壌診断を行う。土壌診断が困難な場合の施肥対応は、行政や普及指導機関に相談する。	<input type="checkbox"/>
○堆肥等を十分に施用して、土壌の交換性カリが低下しないように注意する。	<input type="checkbox"/>
○堆肥の利用にあたっては、放射性セシウム濃度が暫定許容値（400 Bq/kg）以下であることを確認する。	<input type="checkbox"/>

(5) 肥培管理

チェック欄

○土壌中の交換性カリ含量が25mg/100g程度となるよう、速効性のカリ肥料等を施用する。	<input type="checkbox"/>
○窒素の過剰な施肥は控える。	<input type="checkbox"/>

(6) 栽培から収穫、出荷までの管理

チェック欄

○倒伏をさけるため、窒素施肥量、中干しに配慮するとともに、排水性を高めて収穫作業時のほ場表面の乾燥に配慮した水管理を行う。	<input type="checkbox"/>
○コンバイン収穫時の刈り取り高さを15cm以上として、土壌付着量が多い地際に近い部分を刈り残す。	<input type="checkbox"/>
○乾燥したら、すみやかに集草作業を行う。作業時には、土壌の巻き込みに注意する。	<input type="checkbox"/>
○梱包したロールが泥で汚れないようブルーシート等の上に置くなどして、土壌の付着を防ぐ。	<input type="checkbox"/>
○地際部位はできるだけ秋にすき込みして、翌年の移植作業に支障が生じないようにする。	<input type="checkbox"/>

(7) 収穫物の保管

チェック欄

○放射性セシウムの暫定許容値を超える飼料を隔離保管する場合、マジックやスプレーで目印をつけて、誤給餌、誤食しないように注意する。	<input type="checkbox"/>
--	--------------------------

4 堆肥の生産・利用

(1) 現在の汚染状況の把握

チェック欄

○生産した堆肥の放射性セシウム濃度を検査する。	<input type="checkbox"/>
○ほ場の土壌と生産作物の放射性セシウム検査の結果、土壌診断結果、施肥量等の管理履歴を整理、保存する。	<input type="checkbox"/>

(2) ポロ出し、切り返し作業

チェック欄

○マスク・手袋（綿やゴム製）・ゴム長靴等を着用する。	<input type="checkbox"/>
○農作業後に手足・顔等の露出部分を洗浄する。	<input type="checkbox"/>
○屋外での作業後、屋内に入る際は、服を着替えるなど、ちり、ほこり等を持ち込まないようにする。	<input type="checkbox"/>
○できるだけ、キャビン付きのバケットローダを使用する。	<input type="checkbox"/>
○周辺の土壌を堆肥舎内に持ち込まないように注意する。	<input type="checkbox"/>

(3) 堆肥化副資材の利用

チェック欄

○堆肥化副資材の放射性セシウム濃度を確認する	<input type="checkbox"/>
○できるだけ放射性セシウム濃度が低い副資材を利用する。	<input type="checkbox"/>
○できるだけ水分が低い副資材を使用する。	<input type="checkbox"/>

(4) 堆肥の製造管理

チェック欄

○できあがった堆肥の過乾燥に注意する。	<input type="checkbox"/>
○堆肥の流通利用にあたっては、放射性セシウム濃度が暫定許容値（400 Bq/kg）以下であることを確認する。	<input type="checkbox"/>

(5) 堆肥のほ場施用

チェック欄

○堆肥等を十分に施用して、土壌の交換性カリが低下しないように注意する。	<input type="checkbox"/>
○暫定許容値（400 Bq/kg）を超える堆肥をほ場還元利用する際には、8000Bq/kg以下であることを確認し、施用量については自治体等に相談する。	<input type="checkbox"/>

(6) 堆肥の保管

チェック欄

○暫定許容値（400 Bq/kg）を超える堆肥は、保管場所に表示や目印を付ける。	<input type="checkbox"/>
○保管する堆肥には、雨風があたらないよう注意し、周囲に堆肥が流出や飛散をしないようにする。	<input type="checkbox"/>
○周辺の土壌が堆肥の保管場所に吹き込んできて混入しないように注意する。	<input type="checkbox"/>

5 出荷のモニタリング

チェック欄

1. 放牧をしていない。	はい → 3	いいえ → 2
2. 放牧地の牧草は暫定許容値以下だった。	はい → 3	いいえ → ※
3. 放射性Csで汚染された飼料を給与していなかった。	はい → 4	いいえ → ※
4. 飲水に舎外の貯水槽の水や沢水等を使用していなかった。	はい → 5	いいえ → ※
5. 敷料に放射性Csで汚染されたワラ等を使用していなかった。	はい → 6	いいえ → ※
6. 運動のため等で舎外に出さなかった。	はい → 8	いいえ → 7
7. 舎外の運動場等は除染してある。また、雑草等は除去してある。	はい → 8	いいえ → ※
8. 体表面をきれいに洗淨した。	はい 出荷OK	いいえ → 洗淨 してくだ さい

※：普及センター等に相談してください。

暫定許容値を超える放射性Cs濃度の飼料を給与していたことがある場合には、出荷前に普及センターに相談しましょう。

また、出荷前に検査する場合には、測定する機関の指示に従ってください。